# 19［評論］『異邦人のまなざし』

［１］　新発見は無から生まれるのではない。コロンブスの卵がよい例だが、解決がわかってしまった後では、「なあんだ、そんな簡単なことか」という反応が返ってくるように、実は答えがすでに目の前にあるのに、常識が邪魔してそれが見えてない場合が多い。常識が何らかのきっかけで取り除かれ、それまで隠されていたものが見えるようになる。これが発見だ。古い認識枠にとってはノイズでしかなかったためにまったく無視されていた要素が、新しい認識枠におかれることで急に重要性を帯びる。［　Ａ　］創造的発想をするためには、常識から距離を取る必要がある。

［２］　次のような愚か者の物語がある。ある夜、一人の男が道ばたで何かを探している。どうしたのかと尋ねると、鍵を落としてしまったので家に入れないと言う。この近くで落としたのは確かなのかと確認すると、いや、落としたのは他のところだけど、暗くて見えない。だから街灯近くの明るいところで探していると答えたという落ちだ。本当に問題になっているところを探さないで、自分に慣れた思考枠内で解決を探すのは、街灯近くの方が明るいという理由から、そのそばでいつまでも血眼になって探しものをする愚か者と変わりない。

［３］　高学年の学生に比べ、どうも新入生の方が教えにくい。一年生は何も知らないから理解が遅いのだと初めの頃は考えていたが、その解釈は誤っていた。彼らの飲み込みが悪い原因は知識不足ではない。実はその反対に、常識と呼ばれる知識すなわちａヘンケンに彼らはｂシバられていて、既存の常識に反する講義内容が浸透しにくいからだ。

［４］　自然科学と違って、人文・社会科学ではテーマが日常生活と密接に連なっている。そのために、研究の訓練を受けていない人でも多くの知識を持っている。物理学や化学では自分の無知を学生が素直に認めるから、授業内容に対する抵抗はあまり起こらない。ところが恋愛とか責任などというテーマになると、常識が邪魔して論理的な思考展開がかえって難しい。［　Ｂ　］物理学でも、時間・空間・物質などといった当然わかっているつもりの概念を吟味するのは容易でない。しかし人文・社会科学の場合は、［　　　Ｘ　　　］、常識という名のヘンケンがよけいに邪魔になり易い。

［５］　［　Ｃ　］、高学年になり専門の知識が増えるとともに、その分野に特殊な考え方に洗脳されてゆく。そのため、素人なら簡単に気づくことでも、専門家には見えないという逆のｃヘイガイが現れる。だから他の分野の本を読んだり、外国に暮らしたりして違った見方に触れることが重要になる。

［６］　こんなジョークがある。垣根に小さな穴が空いていて、そこから牛が尻尾を出して振っている。それを見た物理学の教授は、「どうやって牛は、あの小さな穴を通り抜けて垣根の向こうに行ったのだろう」と真剣に悩み出したという。普通に考えれば何でもないのに専門家はかえって知識が邪魔してものが見えなくなる事態をこの話は面白おかしく表現している。

［７］　我々は誰でもいわば①色つきメガネをかけているようなもので、レンズが起こす変色やｄ歪みを通してしか人間は外界を把握できない。ある対象を前にするや否や、私たちは自らの持つ世界観にしたがってすぐさま対象を解釈する。知識を習得し、思考訓練を積み、［　Ｄ　］喜怒哀楽を生きることをとおして、我々の眼を覆うレンズの色はどんどん変化する。かといってレンズの色が淡くなったり、無色透明になったりすることはありえない。哲学者であろうとも科学者であろうとも、世界観という色メガネを必ずかけて生きている。メガネをはずして外界を直接把握することなど人間には絶対にできない。

［８］　②新しい知識の獲得とは、空の箱に何か新しいものを投入するようなことではない。記憶と呼ばれるこの箱にはすでに様々な要素がいっぱいに詰まっている。何らかの論理にしたがって整理されたそれらの要素群の中に、さらに新しいものを追加するような状況を想像しよう。そのままでは余分の空間がないから、既存の要素を並べ替えたり、場合によっては一部の知識をｅホウキしなければ、新しい要素は箱に詰め込めない。

［９］　子供の頃から我々はしい量の情報を摂取・受容してきた。ところで赤ん坊は無知な状態でこの世に生まれてくる。しかし無知のために外部情報の受容が妨げられるわけではない。それどころか反対に、彼らは驚くべき速度で新しい情報を・消化してゆく。それは、年を取るにしたがって③構造化される記憶がまだに備わっていないからだ。外国語は幼少のうちに学ばなければ、後にどんなに努力しても発音や文法の誤りを矯正できないが、それは、母語を習得するにつれ、固有の言語構造ができ上がり、他の言語の世界を受けつけなくなるからである。

［10］　知識の欠如が問題なのではなくて、その反対に④知識の過剰が創造活動の邪魔をしている。有益だからといって新しい情報が常にすんなりと受け入れられるわけではない。したがって創造的思考のためには、常識的見方とは違った角度から材料を見直す必要がある。

●出題校

立教大学

●語　注

コロンブスの卵＝一見誰でも思いつきそうなことでも、それを最初に考えたり行ったりするのは難しいこと。

■覚えておきたい語句

□11血眼……………………夢中で奔走すること。

□20概念……………………物事の概括的な意味内容。

□20吟味……………………詳しく念入りに調べること。

□31喜怒哀楽………………喜びと怒りと悲しみと楽しみ。さまざまな人間感情。

□41咀嚼……………………物事などの意味をよく考えて理解すること。

◆漢字

　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ［　　　　］ｂ［　　　　］

ｃ［　　　　］ｄ［　　　　］

ｅ［　　　　］

問１　空欄Ａ～Ｄに入る最も適当な語句をそれぞれ次から選べ。

ア　ところで　イ　あるいは　ウ　もちろん　2点×4

エ　とはいえ　オ　したがって

Ａ［　　　］Ｂ［　　　］Ｃ［　　　］Ｄ［　　　］

問２　空欄Ｘに入る最も適当な語句を次から選べ。　5点

ア　考察対象と常識との距離がより近いので

イ　考察対象と常識との距離を意識するため

ウ　考察対象は論理的な材料であるから

エ　考察対象は常識的に考えて受け入れられないので

オ　考察対象はその人に最も関心がある内容であるため

〔　　　〕

問３　傍線部①について、「色つきメガネ」はどのようなことをたとえているのか。本文中の語句を用いて、三〇字以内で説明せよ。【読みのセオリー】　10点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部②の理由として最も適当なものを次から選べ。　6点

ア　既存の知識の体系を修正してはじめて、新しい知識がそれと整合しうるから。

イ　人間の記憶力に照らして、同時に保有しうる知識の量には限りがあるから。

ウ　すでに一定の知識を有していなければ、未知の情報を解釈できないから。

エ　人は成長過程で情報を受容するにしたがって、その受容速度が遅くなるから。

オ　古い知識がすでに固定化されており、その誤りを認めることが困難だから。

〔　　　〕

問５　傍線部③とはどういうことか。「すること」に続くように本文中から一五字以内で抜き出せ。　6点

［　　　　　　　　　　　　　　　］すること。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　傍線部④の具体的な説明として最も適当なものを次から選べ。　5点

ア　知識が記憶の箱からあふれ出すほど多くなると、新たな情報を吸収できなくなってしまう。

イ　思考方法を規定する言語の習得は、新たな知識の獲得とともに困難になってゆくものである。

ウ　既存の解釈枠組みが強固になりすぎると、新たな発想を受け容れられなくなってしまう。

エ　常識は世の中の人々の多数派が受け容れている知識であり、それは往々にして凡庸である。

オ　新たな発想を生み出すのには、むしろ、知識の少ない新入生や赤ん坊の方が適している。

〔　　　〕

問７　次のうち、本文の内容と合致するものを１、合致しないものを２として、それぞれ番号で答えよ。　2点×5

ア　「コロンブスの卵」は、常識から距離を取ることによって創造的な発見に成功した例である。

イ　人文・社会科学の大学生は、高学年になっても既存の知識にとらわれることはない。

ウ　専門家は「色つきメガネ」の色が濃いため、かえって簡単なことが見えないことがある。

エ　子供は既存の知識がないために、外部の情報を取り入れ、たくさんの記憶を形成できる。

オ　子供も言語を習得するに従って、固有の言語構造が形成され、外界を認識する力は失われてゆく。

ア〔　　　〕イ〔　　　〕ウ〔　　　〕エ〔　　　〕オ〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ偏見　ｂ縛（られ）　ｃ弊害　ｄゆが（み）　ｅ放棄

問１　Ａ＝オ　Ｂ＝ウ　Ｃ＝エ　Ｄ＝イ

問２　ア

問３　１外界を把握するとき用いる２各自の持っているそれぞれの３世界観。（29字）

（３がなければ×。１＝３点、２＝３点、３＝４点。）

問４　ア

問５　何らかの論理にしたがって整理（すること。）（14字）

問６　ウ

問７　ア＝１　イ＝２　ウ＝１　エ＝１　オ＝２

【読みのセオリー】

★比喩を三つの要素で読む

　比喩は次の三つの要素で考える。

　⑴何がたとえられているか。

　⑵何でたとえられているか。

　⑶その二つを関係づけている特性、共通性は何か。

　比喩を読むときはこの三つの要素をよく確認しよう。

【現代文読解用語200】

問　次の言葉の意味をそれぞれ後から選べ。

149不条理（　　）

150畏怖（　　）

151葛藤（　　）

152（　　）

153表象（　　）

154契機（　　）

155（　　）

ア　心の中にある対立する感情の選択に迷う状態。

イ　筋が通らないこと。

ウ　心に浮かぶイメージ。

エ　押し広げること。

オ　恐れおののくこと。

カ　人をあざむき騙すこと。

キ　きっかけ

【解答】

149イ　150オ　151ア　152エ　153ウ　154キ　155カ

〔要　約〕

　［１］・［10］段落にこの文章の主張がある。ここを中心にまとめる。

展開１・２を中心にして、主張の裏付けとなる部分を加える。

　　　　↓

　人は、誰もが自らの持つそれぞれの世界観をとおして外界を把握し、知識や常識が偏見となって、ものが見えなくなってしまう。創造的発想をするためには、それらの常識的見方とは違った角度から見直す必要がある。（98字）

〈筆者＆出典〉小坂井敏晶（こざかい・としあき）一九五六（昭和31）年愛知県生まれ。一九九四年、フランス国立社会科学高等研究院修了。現在は、パリ第８大学心理学部准教授。社会心理学専攻。著書に、『異文化受容のパラドックス』『民族という虚構』『責任という虚構』『人が人を裁くということ』などがある。本文は、『異邦人のまなざしー在パリ社会心理学者の遊学記』（現代書館、二〇〇三年）より。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

新問　10〜11行目「街灯近くの方が明るい」とあるが、その意味内容として最も適当なもの次から選べ。

ア　正解は往々にして身近なところにある。

イ　瑣末な問題を解決する方が容易である。

ウ　手がかりのあるところに解決策もある。

エ　解答を探す手間が少なくて済む。

オ　既存の認識枠組みによってとらえやすい。

　答　オ

新問　本文を大きく三つにわけると、二つ目、三つ目はどこからか。形式段落の数字で答えよ。

答　二つ目＝２　　三つ目＝10